様式３－小

令和3年度授業改善推進プラン

清瀬市立清瀬第七小学校　第2学年

	授業における課題や学力調査資料から見えた課題	授業改善のための具体策	成果と課題（年度末）
国語	＜知識・技能＞ ・漢字を覚えることが苦手な児童に覚えさせること。 ・既習の漢字を文章の中で使わせること。 ＜思考・判断・表現＞ ・自分の考えを相手に伝わるように、分かりやすく順序立てて話すことができるようにすること。 ・自分の考えを、事柄の順序にそって書かせること。	・児童に合った漢字の覚え方を見付けさせる。 ・日記の課題や授業の振り返りなど、書く機会を多く設ける。その都度、自分の書いた文を見直し、修正するよう声をかける。 ・どのような順序で話せば良いか例を示し、それにそって考えさせる。 ・「はじめ・中・終わり」に分けた構成メモを作った上で、文章を書くようにさせる。	・漢字の部分に着目するなどの指導を続けたことで、覚え方を習得できた児童が増えた。 ・文章を書く機会を多く取り入れたことで、書くことに抵抗がなくなった。 ・年間通して、順序に気を付けるように指導を続けてきたことで、時系列にそった話が出来るようになった。
算数	＜知識・技能＞ ・長さや水のかさの単位について、cm、m、mmの関係、dl、l、mlの関係を理解させる。 ＜思考・判断・表現＞ ・問題をよく読んでから立式させること。	〈知識・技能〉 ・長さを測る活動、水のかさを調べる活動をもっと多く取り入れ、その際、単位を変えて表現する活動も多く行う。 ・文章問題に取り組ませる際、内容を整理する時間を必ず取り、習慣化させる。	〈知識・技能〉 ・水のかさや長さの学習の際、測定活動を多く取り入れることで、かさや長さの量の感覚を身に付ける児童が増えた。 ＜思考・判断・表現＞ ・問題に取り組む際、図などを使って内容を整理することで、正しく立式をする児童が増えた。
生活	＜思考・判断・表現＞ ・具体的な活動や体験を通して思考し、表現によって活動や体験を振り返り、思考を深めること。 ・自分の考えや気付きをまとめ、発表させること。 ・自分の成長を肯定的にとらえること。	・内容により他教科と関連付けたり、学校図書館・ICT機器を積極的に活用したりして、学習活動を豊かにする。 ・考えのまとめ方を提示することで、感じたこと・考えたことを表現する技術とその習慣を身に付けさせ、知的な気付きを深める。 ・授業中、一人一人の考え、活動を積極的に取り上げて評価し、自分のよさに気付かせ、自己肯定感を高めることによって、自分の誕生と成長を具体的にとらえられるようにする。	＜思考・判断・表現＞ ・他教科との関連、学校図書館、ICT機器の積極的活用により、活動が多様化し、理解が深まった。 ・基本的な考えのまとめ方、発表の仕方を身に付けさせようと指導したが、徹底するまでには至らなかった。指導の内容が児童の実態に合わず、内容の再考が必要である。 ・児童一人一人の考え、活動を積極的に取り上げ評価することで、多くの児童が自分のよさに気付き、成長を具体的に感じることができた。
音楽	＜知識・技能＞ ・自分の歌声及び発音に気を付けて歌う技能を身に付けさせること。 ・音色に気を付けて、旋律楽器及び打楽器を演奏する技能を身に付けさせること。 ＜思考・判断・表現＞ ・曲想を感じ取って表現し、どのように演奏するかについて思いをもたせること。	・自分の歌声に注意しながら歌う習慣を身に付られるように、繰り返し声かけをする。 ・動画を活用し、魅力ある歌声に接する機会を増やせるようにする。 ・楽器固有の音色を意識した打ち方や弾き方などを身に付けられるように指導する。 ・感じ取ったことを基に、いろいろな表現の仕方を体験させるようにする。	＜知識・技能＞ ・発声や発音に気を付けながら歌うことができた。正しい歌い方について、繰り返し声かけをしたことが有効だった。 ・音色に気を付けながら、正しい奏法で合奏することができた。タブレットを活用し、教師の見本演奏動画を視聴させたことが有効だった。 ＜思考・判断・表現＞ ・どのように演奏するかについて思いをもたせることが不十分だった。感じ取ったことを基に、いろいろな表現の仕方を体験させる機会をつくる必要があった。
図画工作	＜思考・判断・表現＞ ・自分の表現したいイメージに合わせて色や形を工夫して表現すること。 ・感じたこと、想像したこと、見たことから表したいことを見付け、どのように主題に表すか考えさせること。 ＜主体的に学習に取り組む態度＞ ・自分の作品に向き合い、さらに作品をよくするためにできることはないか、粘り強く表現に取り組ませること。	・表したいイメージをもてるように、絵や言葉でアイデアを描き出すワークシートを活用する。 ・タブレットを使い、写真を見せてイメージが膨らむように支援する。 ・制作の途中で子供の作品を紹介したり、褒めたりすることで制作意欲を高める。	〈思考・表現・判断〉 ・教師が絵の具やクレヨンの混色を復習する機会を与えたことで、子供の形や色使いの幅を広げることができた。 ・子供がタブレットを使ったことでイメージ画像に発想を狭められてしまう子が見受けられた。教師が違う支援を模索する。 〈主体的に学習に取り組む態度〉 ・子供が鑑賞する機会を増やし、教師が興味や参考にしたくなるように言葉かけをしたことで、関心をもって制作に取り組める子供が増えた。さらに子供の意欲を高められるよう、教師が教材の工夫や個別の声かけ等、引き続き支援を行う。
体育	＜知識・技能＞ ・持久力やボールを投げる、捕る力を身に付かせること。 ＜思考・判断・表現＞ ・勝敗を素直に受け入れさせること。	・日頃から体を動かすことを推奨し、休み時間は体調が悪い時以外は遊ぶように声をかける。朝遊びの時間を活用して、体力の保持・増進を図る。 ・授業の始めに毎回走る、投げるなどの基本的な運動技能を高められる活動を取り入れる。 ・ルールを簡略化し、どの児童でも理解できるような内容にする。 ・児童の良い動きを積極的に認め、称賛を続けることで、勝敗に執着しないようにする。	＜知識・技能＞ ・休み時間の外遊びの奨励、朝遊びの時間の積極的な活用を通して体を動かして活動することへの意欲が増した。 ・授業の始めに走る、ドリブルなどの活動を必ず取り入れることで走力や基本的なボール操作について向上が見られた。 ＜思考・判断・表現＞ ・ルールを簡略化したゲームにすることで、どの児童も活躍する場面が増え、積極的に取り組むことができた。 ・児童のよい動きを積極的に認め、価値づけすることで、勝敗以外の喜びを感じる児童が増えてきた。
道徳	・自分の考えをもたせること。また、詳しく説明させること。 ・自分と異なる意見も受け入れ、ねらいとする道徳的価値について考えを深めさせること。	・自分の考えをうまく表現できない児童には、友達の考えを参考にさせるなど、段階的に自分の考えが表現できるようにする。 ・「なぜそう思ったのか。」を適宜問いかけ、そうした考えに至った過程についても言語化させる。 ・役割演技や動作化なども行いながら、教材文を自分の事として捉えさせる。その際、葛藤する登場人物の思いを想像させる。	・自分の考えをうまく表現できない児童に、友達の考えを参考に考えさせることで、表現方法が身に付き、何も書かない児童が減った。 ・考えの根拠を適宜問いかけ、言語化させることで自分の考えを深めさせることができた。 ・役割演技や動作化を取り入れることで、登場人物の思いに近づけることができた。

※　枠の大きさは適宜調整して、１枚に収まるように作成してください。